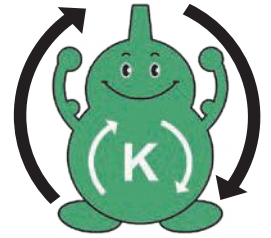


# ごみジャーナル

No.53

発行/ごみ問題を考える草津市民会議

編集/広報委員会



クルリーナちゃん  
(ごみ問題を考える草津市民会議の  
キャラクター)

令和5年  
10月7日

## キラリエ草津で、 エコライフフェア草津2023を開催!

お子さんに大好評!

### おもちゃの 0円マーケット



使わなくなった  
おもちゃを持ち寄り、  
欲しいものは持ち帰って  
いただきました。

4年ぶりの復活!

### リユース マーケット



出店者を募り、  
フリーマーケットを  
開催しました。

こちらも4年ぶりの復活!

### リユース家具 抽選会



不要となって  
回収した家具の中から  
再利用できる家具等を抽選で  
お譲りしました。

### ごみ分別ゲーム



正しい  
ごみの分別を知るための  
クイズに挑戦!

### 草津の桜の木を使った工作コーナー



完成品

### 風呂敷活用講座



風呂敷は  
レジ袋など、さまざまな  
活用法があります!

### 学生服のリユース・リサイクル



不要になった  
制服や学用品は  
資源になります!

詳細は「さくらや 草津」と検索!

### フードドライブ



家庭や職場で余っている  
食品を集めて、必要としている団体等に  
寄付する活動のことです。

詳細は「草津市社会福祉協議会」と検索!

### 参加者の声

- 色々なブースがあり、大人も子どもも楽しめた。
- 毎日の生活に大変参考になりました。
- 今まで以上に物を大切に使い、資源を有効活用し、節約してエコライフを楽しんでいきたい。

## ごみ問題を考える草津市民会議顕彰

本市民会議では、毎年、ごみ問題解決のための啓発や実践活動に尽力した方を顕彰しています。令和5年度は、鍛示様、大塚団地 資源回収たんぽぽの会様、松田様を顕彰させていただきました。

### 鍛示 様



中学校通学路沿いの緑地の清掃や草花の手入れ、また、バス停内の清掃、たばこの吸い殻などの散在性ごみの回収を実施。

### 大塚団地 資源回収たんぽぽの会 様



23年以上にわたり、収集日を週2回に設定し、資源ごみを町内全戸から受け取るなど、資源回収活動に積極的に取り組む。コミュニケーションツールの一つとして住民同士の繋がりに寄与している。

### 松田 様



10年以上にわたり、毎週2回、十禅寺川と湖岸周辺のごみ拾いや道路の異常がないか等の点検活動を実施。

## ポイ捨て防止市民行動の日

令和5年5月28日(日)にエイスクエアで、本市民会議の会員・企業・行政機関が連携し、ポイ捨て防止の街頭啓発を行いました。

各学区、自治会、ボランティアグループによる清掃が行われていますが、一向にポイ捨ては

なくなりません。道路や河川の環境は私たちが生活していくなかで、大切に守る必要があります。不法投棄のないよう地域の力で無理せず活動を広げ、豊かな心を育みましょう。



## 市内散在性ごみ一斉清掃

令和5年度も各町内会や各種団体のご協力のもと、11月26日(日)を中心に、市内散在性ごみ一斉清掃を実施しました。市内14か所の小学校に設けた回収拠点にごみが集められ、ごみの総量は約4,940kgで参加者数は約12,400人でした。ご協力ありがとうございました。紙類や空き缶、ペットボトルのほかに、金属棒やロードコーンの重り、鉄板の溝蓋や陶器、血圧計や自転車のタイヤ等の不法投棄と思われるものも出てきました。住みやすく、安全な街を作っていくためにも、日頃から市民のみなさんで気を付けていきたいものです。



# ごみを活かして 減らす取組み

令和5年11月18日実施



前京都大学准教授で現在総合地球環境学研究所（通称地球研）の研究基盤国際センター教授の浅利美鈴先生の講演をお聞きして、大変もりだくさんの内容の中で、今私たちがすぐにでも出来る取組みに焦点を当てて、以下に記していきたいと思えます。

- 1 喫緊の課題とも言うべき、消費が右肩上がりの昭和の時代の典型的な経済システムといわれる大量生産・大量消費・大量廃棄からの脱却です。具体的には、本物・こだわりの物を、吟味して買う、地場産業のものを、買う前に在庫を確認する、しまう場所を絞るなどです。またここでは、昨今極めて重大な食品ロス減らすために様々な取組みが必要となり、代表例では、食品収納庫数の削減と空腹時には買物はしないことなどが指摘されています。また、残飯による食品の損失は、農業・水産業の総生産額に匹敵する現実を直視する必要があります。
- 2 リユースの重要性が挙げられます。具体的には、図書館を利用すること、最近流行りの捨てられそうなものを、アップサイクル（元のものよりも価値の高いものに生まれ変わらせること）されて新しい物をつくることや、修理・修繕に出すことなどです。
- 3 プラスチックなどの資源を、回収し、社会へ戻すことが挙げられます。具体的には、プラスチックの食品トレーは店頭へ返すことや、分別リサイクルに参加することが挙げられます。
- 4 世界での大量消費を表す大きな“バケツ”から、地域毎の小さな“バケツ”の組み合わせに切り替えることが挙げられます。具体的には、地産地消を心掛けることや、田舎で買い物をするなどです。

以上の取組みを、それぞれの行動をチェックして、ご自身の生活へ当てはめていくことが、ごみを活かして減らす取組みに繋がることと思えます。

そして、現在10代が最もSDGsを考慮して、商品やサービスを選択しているということを背景に、資源循環を始めとして、サーキュラーエコノミー（循環経済）を意識した、持続可能な社会が来ることを願うばかりです。

以下に先生が過去取組まれたことや、現在も進行形で取組まれておられることの詳細が見られる二次元コードを記しますので、ご関心がある方はぜひ知見を深めていただくことをお勧めします。

 <p>アプリ ごみゼロ</p>	 <p>エコ〜ど京大</p>	 <p>京都超SDGs コンソーシアム</p>
 <p>地球環境 ユースサミット</p>	 <p>3R・低炭素社会 検定</p>	
 <p>廃棄物資源循環 学会</p>	 <p>京都里山 SDGsラボことす</p>	



※参考文献：ごみゼロ大作戦！めざせ！Rの達人（全6巻）ポプラ社：監修浅利美鈴先生

## 第2回

ごみ問題を考える  
セミナー

# 未来のために知っておきたい 海とプラスチックの話

令和6年1月27日実施

セミナーの詳細はこちら  
(市ホームページ)



同志社大学経済学部准教授・特定非営利活動法人プロジェクト保津川代表の原田禎夫先生の講演をお聞きして、表題の件並びに保津川での取組みについて、以下に記していきたいと思えます。

プラスチックについては、2000年から2019年でなにかと二倍の生産が世界で進んでおり、また国内のリサイクル率は、20%にも満たない現実があります。それに伴い、海洋プラスチック汚染は年々進み、直近では、昨年のG7環境大臣会議で、主要20カ国の海洋プラスチックごみによる汚染を2040年までにゼロにする合意がなされております。

海の生き物への深刻な影響と共に、2050年には海中のプラスチックの重量が魚の重量を超えるとも言われ、そのほとんどは、陸から川を通じて流れ出した生活ごみとも指摘されています。

ちなみに、現在国内でのプラスチックごみ減量対策として、地域レベルで規制対象可能なレジ袋は、世界を俯瞰すると、2018年の国連環境計画から、世界のレジ袋規制が開始され、現在では130カ国あまりがレジ袋に対するなんらかの法規制を実施し、うち80カ国以上は無料配布を禁止しております。ご存じの通り日本でも、2020年7月からレジ袋が有料化されております。

プラスチック汚染を解決できる単一の手法はなく、国家、地方、地域、企業、個人の各レベルでの効果的取組みが不可欠で、地域レベルから国際的レベルまでの「**価値の共有**」が最終的には必要で、それには、**市民と一緒に行動すること**と、それに伴う**消費者理解**が必須との結論でした。

その中でのキーワードは、先生の考えられた“保津川のごみマップ”で、正にこのマップでごみの見える化が実現し、その訴求力が自治会など地縁組織で市民一緒のごみ拾い&調査の統一活動に繋がり、消費者の理解を得られたと言っても過言ではありません。

究極的には、亀岡市の保津川での取組みは、船頭のボランティア活動から始まり、それが、日本初のレジ袋提供禁止条例の制定にまで至ったのは、まさに既述の「価値の共有」等の具現化に他ならなかったと言えると思えます。

論文

環境保全と市民活動の展開  
—保津川(京都府)のごみ問題を事例に



アプリ ごみマップ



動画

川から海ごみを無くそう!  
プロジェクト保津川の挑戦  
日本財団 海と日本PROJECT in 京都 2020 #07



# 生ごみ減量の取組み

「食品ロスを減らそう!!」の取組みの一環として、シリーズで食材保存のコツを連載しています。今回は魚介類の保存方法です。

(出展：滋賀県買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会事務局 食品ロス削減アイデア集)

## 魚介類の保存のコツ

- **買い物から帰ったらすぐに冷蔵庫に保存しましょう。**  
ポリ袋に入れ、冷蔵庫の下段で保存。(魚介類から出た汁が他の食品につかないよう注意)
- **一尾ものの魚は、買ったその日のおいしいうちに食べるようにしましょう。**  
青魚は傷みやすいので早めに、また刺身など生で食べるものは買ったその日に、残ったものは加熱して食べましょう。
  - **冷蔵保存の場合は**
    - ①流水でよく洗い、内臓やえらをとる。
    - ②水気をよく切り、空気に触れないようラップに包んで冷蔵する。
- **まとめ買いをした場合は小分けにし、冷凍保存しましょう。**(保存期間の目安は約1か月)  
冷凍焼けで変色したり、嫌な臭いがしたりするものは食べないようにしましょう。
- **解凍するときは、冷蔵庫の中に置くか流水を使いましょう。**冷凍した魚をおいしくいただくには流水解凍がおすすめです。常温で解凍したらすぐ調理しましょう。
- **一度解凍したものは、品質が低下し、食中毒の原因となる細菌が増える可能性がありますので、再冷凍はおすすめできません。**食べ切りましょう。

食品ロスを減らすため、フードドライブにもご協力ください!!  
詳細は市のホームページをご覧ください。



## 段ボールコンポスト堆肥で 野菜作りに挑戦しています

段ボールコンポストの詳細は  
こちらから(市ホームページ)



段ボールコンポストとは、段ボール箱を利用した生ごみ処理容器で、ベランダや屋内で気軽に取り組むことができます。

### 使ってみた感想

秋野菜から、年間を通しプランターで野菜作りを始めました。夏野菜は猛暑の影響でやや出来は良くありませんでしたが、秋野菜を大きめのプランターで始めました。根菜類は無理なので、葉物野菜を主にしました。土とコンポスト堆肥を使い、まず赤ジャガイモに挑戦し、結構大きなものが取れました。葉物はレタス、小松菜、ニラ等を蒔きました。玉ねぎは初めての挑戦ですが、苗を買って50本植えてみました。

プランターでの家庭菜園なので、水やりや追肥管理も簡単!年代を問わず楽しめます。



赤ジャガイモ



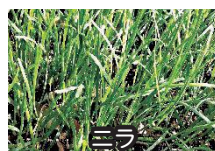
小松菜



キャベツ



芽が出てきたパセリ

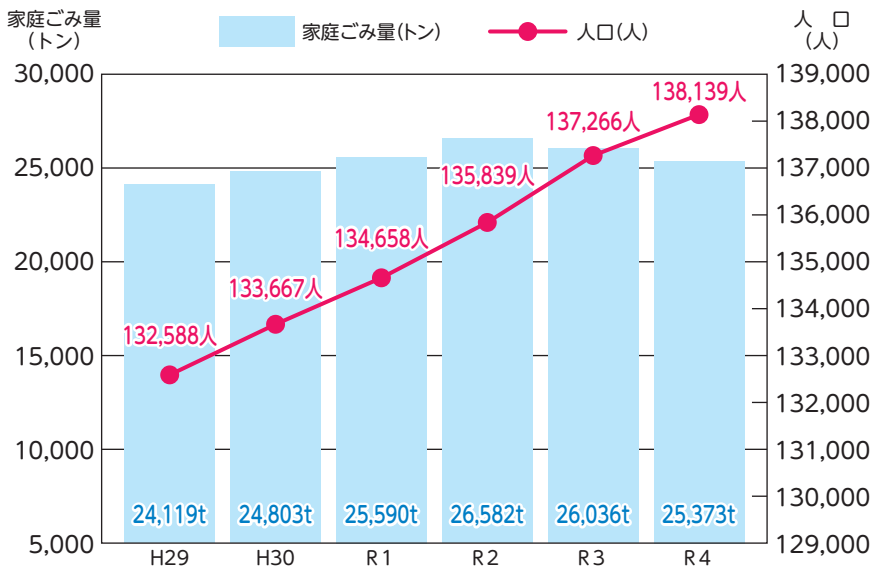


ニラ



玉ねぎ

# 草津市のごみの現状



令和5年10月1日から焼却ごみ袋の価格(手数料)を変更し、袋のサイズは45L・30L・15Lの3種類となりました。

ごみの排出量に応じた負担の公平化、ごみの排出抑制や再生利用等をより進めるための見直しです。

まちの賑わいと、環境負荷の低減を両立するため、ごみの排出量を抑えましょう。

※人口は、各年10月1日現在の行政区内人口

## ごみ分別動画

ごみの分別方法やコツについて映像で解説しています。



再生時間を2分程度にまとめているので短時間で見られます。

詳細はこちら  
(市ホームページ)



## ごみ分別アプリ

草津市ではごみ分別アプリを配信しています。

ごみカレンダーの確認やごみ分別辞典などお役立ち情報が満載です。ぜひダウンロードして活用ください!

詳細はこちら  
(市ホームページ)



## 会員募集

ごみ問題を考える草津市民会議では、ごみ問題に関心があり、ごみ問題解決のための啓発活動やイベント等に参加できる方を募集しています。

### ●対象

草津市に在住、または通勤、通学している方

### ●申込方法

住所、氏名、電話番号、メールアドレス(お勤めの方は勤務先)を下記の問合せ先までご連絡ください。



## 編集後記

昨今は、寒暖の差が激しいので季節の変わり目があまりわからなくなったように思います。

ごみジャーナルもNo.53発行となり、当初から一貫としてごみ減量に取り組んでいます。今では、エコスタイル・SDGs・サステナビリティ・3Rと横文字にも慣れてきたのではと思っています。出したごみに責任を持ち、これからもなお一層資源循環を学びたく思っております。

ごみジャーナルNo.53についてのご意見、ご感想をお気軽に下記までお寄せください。

問合せ先

〒525-0043 滋賀県草津市馬場町1200番地25 (草津市立クリーンセンター内)  
「ごみ問題を考える草津市民会議」広報委員会  
TEL: 077-562-6361 FAX: 077-566-1694  
E-mail: shigen@city.kusatsu.lg.jp

広報委員

松村 幸子・木村 兼久  
富山 康夫・油布 輝義  
音掬 宏勝・清水 節子  
林 和臣・山口 尚孝